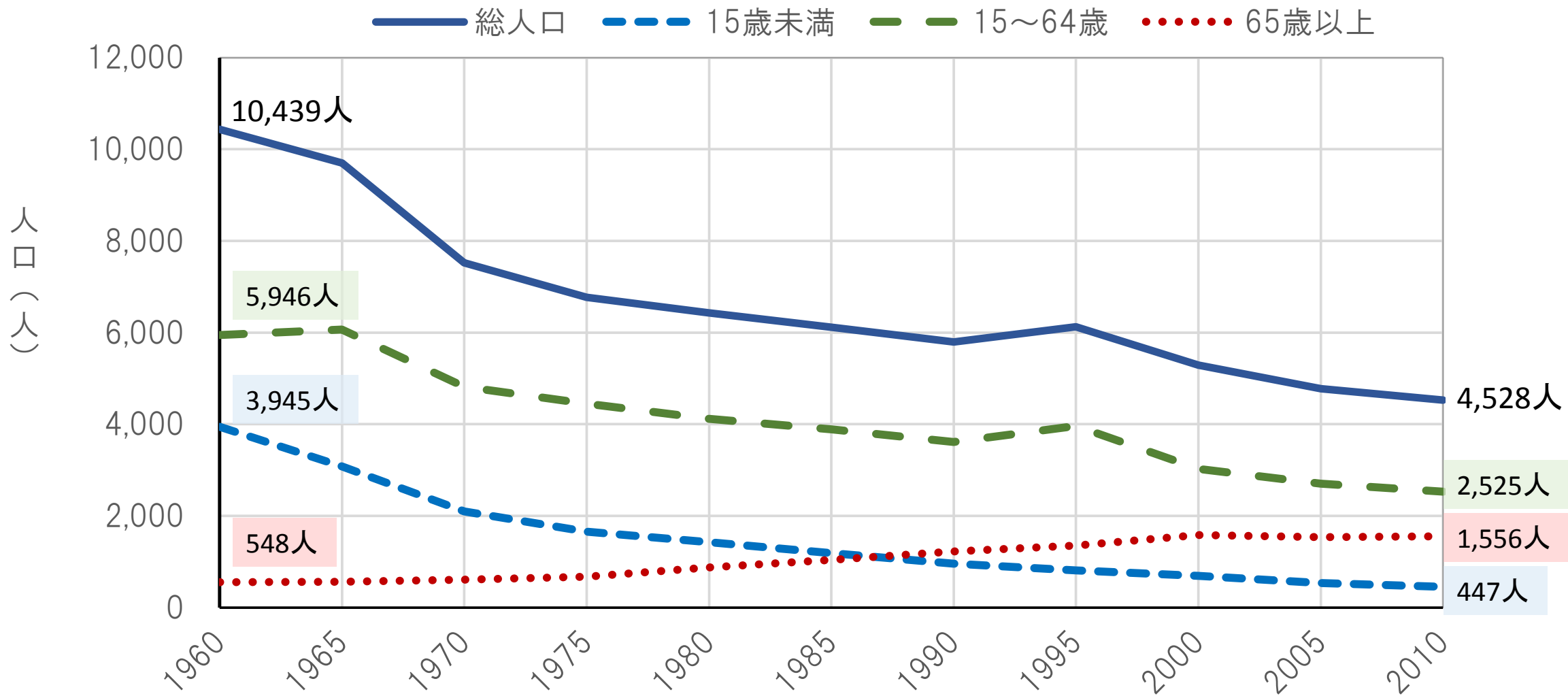


(0) 前回の振り返りと追加資料

■ 人口の推移

- この50年で人口が4割に
- 高齢者のみ人口増加

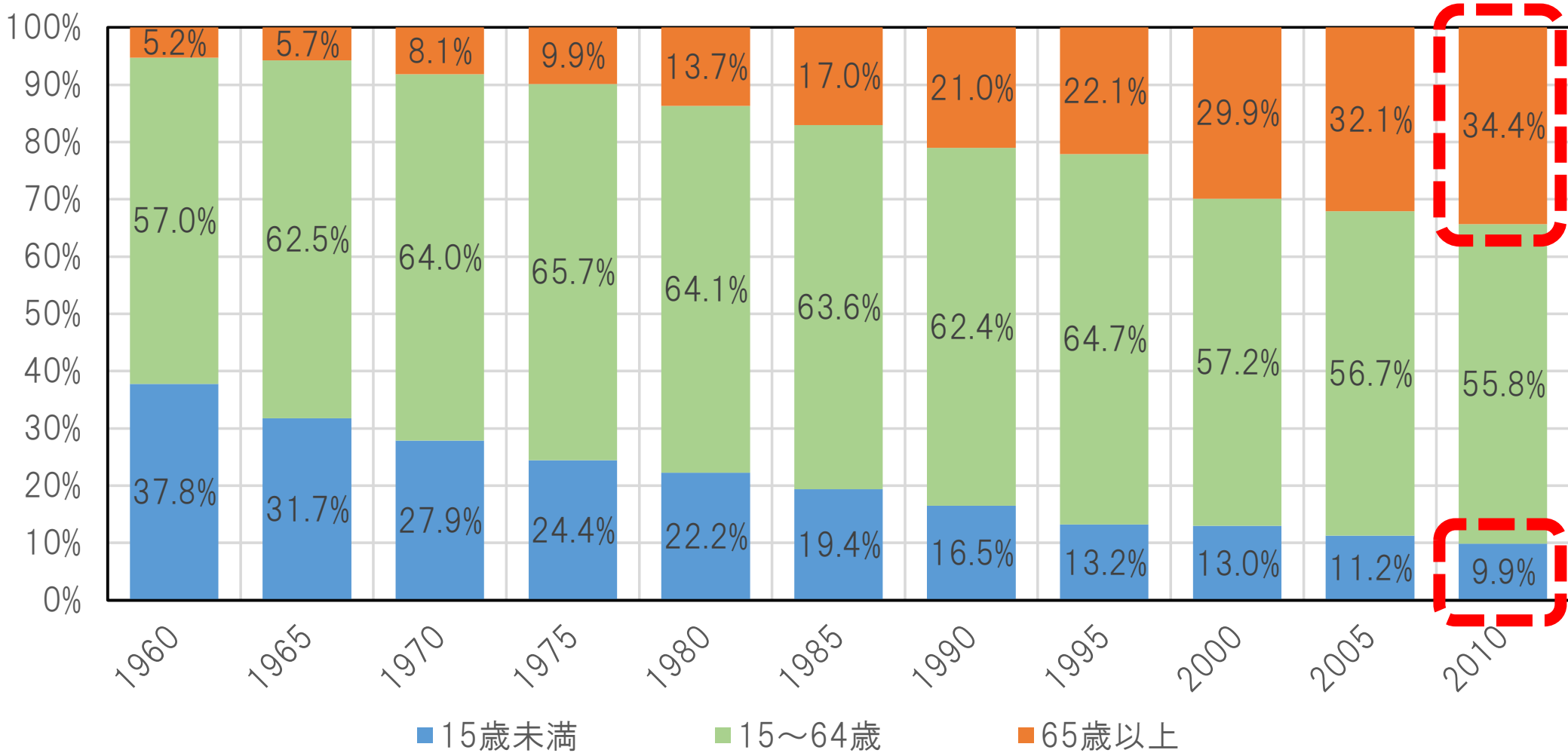
総人口・年齢3区分別人口の推移



■ 人口の推移

- 高齢者率が3人に1人
- 一方、子どもは10人に1人に

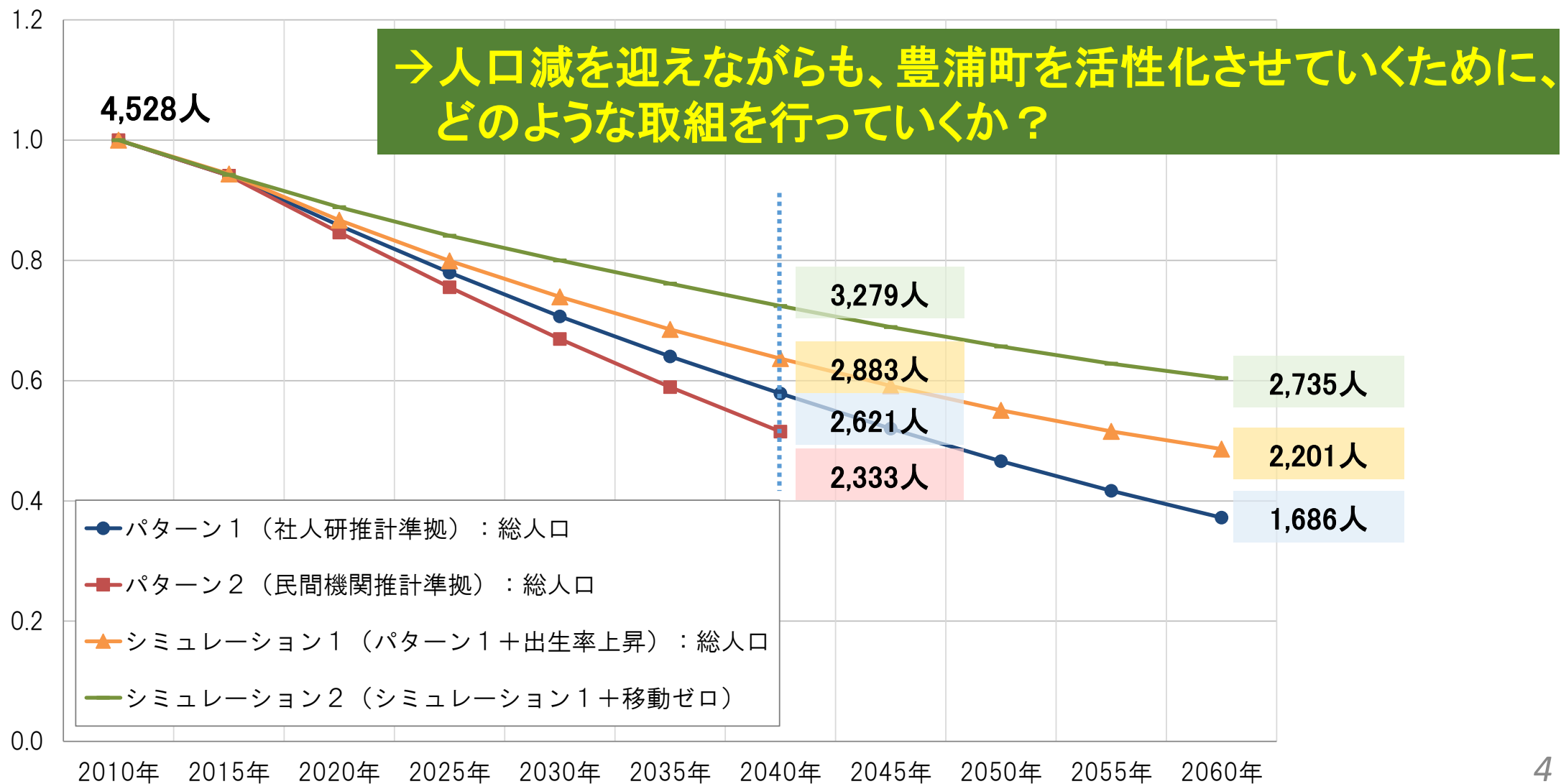
年齢3区分別人口比率



豊浦町の人口の長期見通し(将来推計)

● 最も低い推計値で、30年間で半分に減少

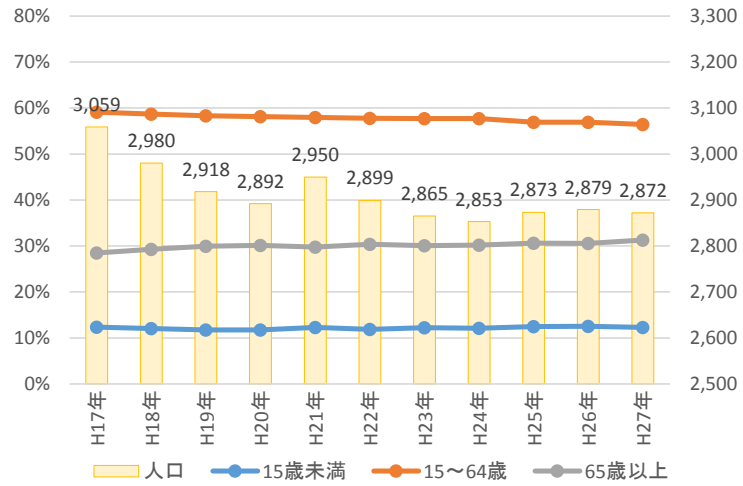
豊浦町の人口の長期的見通し (2010年を1.0とした指数)



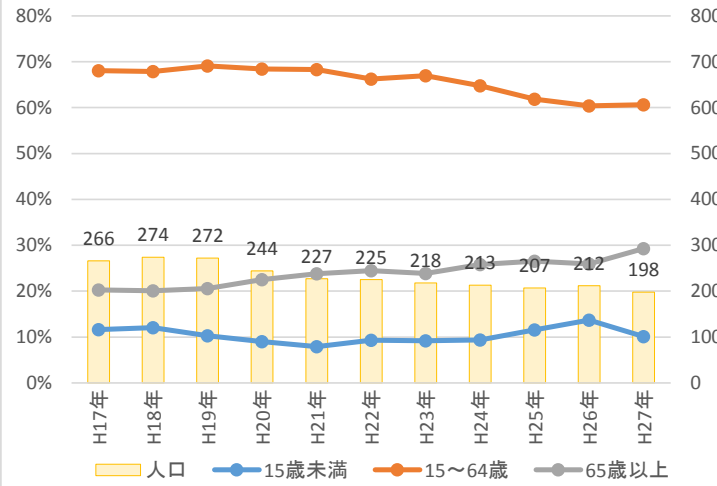
人口の地区別推移

● 高齢者割合が増加し、生産年齢人口割合が減少している地区

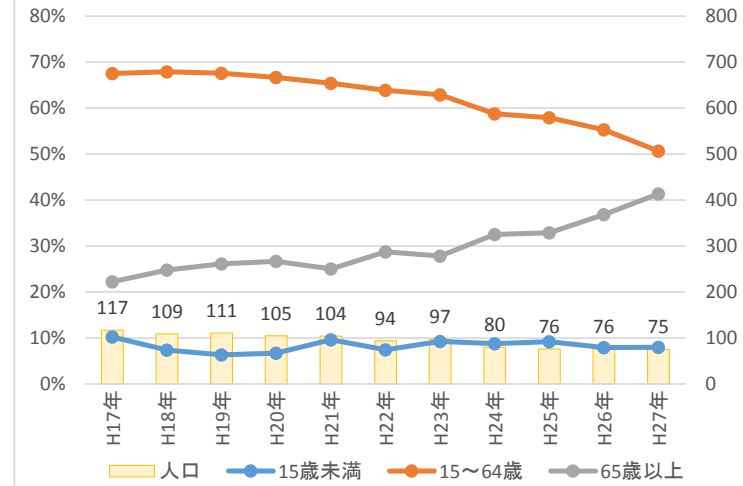
市街地区(高岡地区含む)



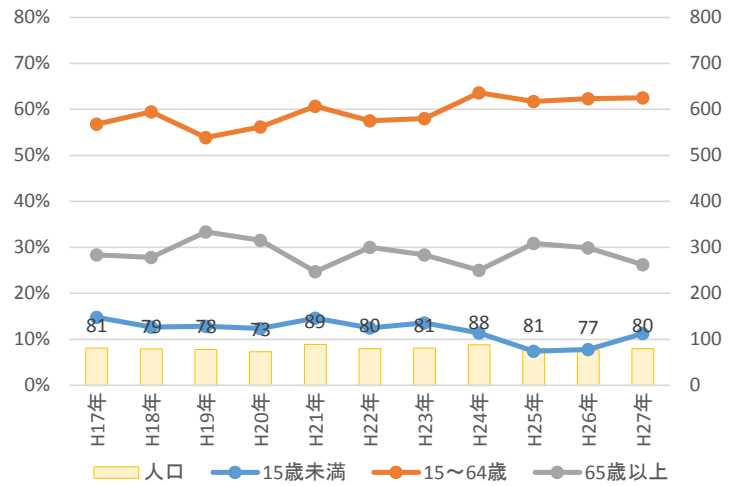
桜・大和地区



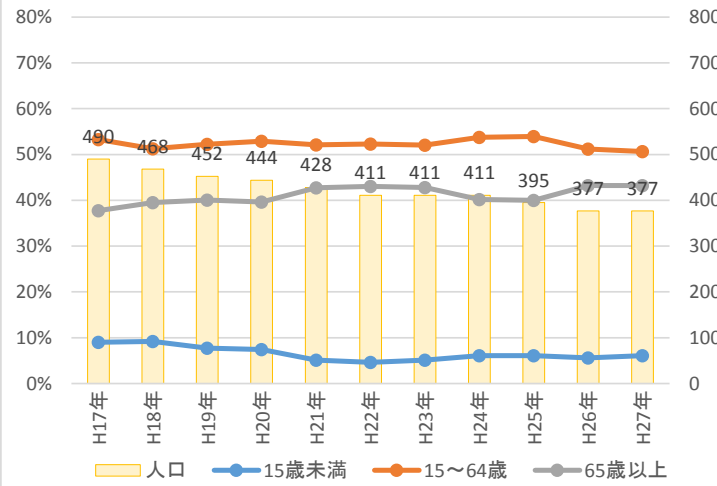
美和・山梨地区



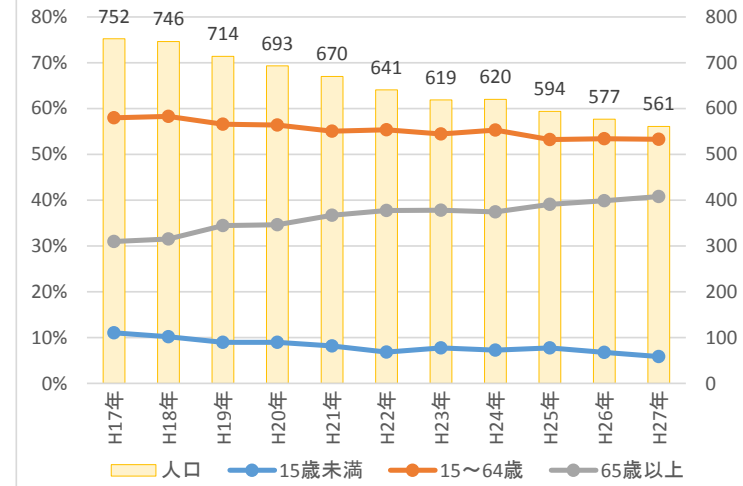
新山梨・上泉・新富地区



礼文華地区



大岸・豊泉地区

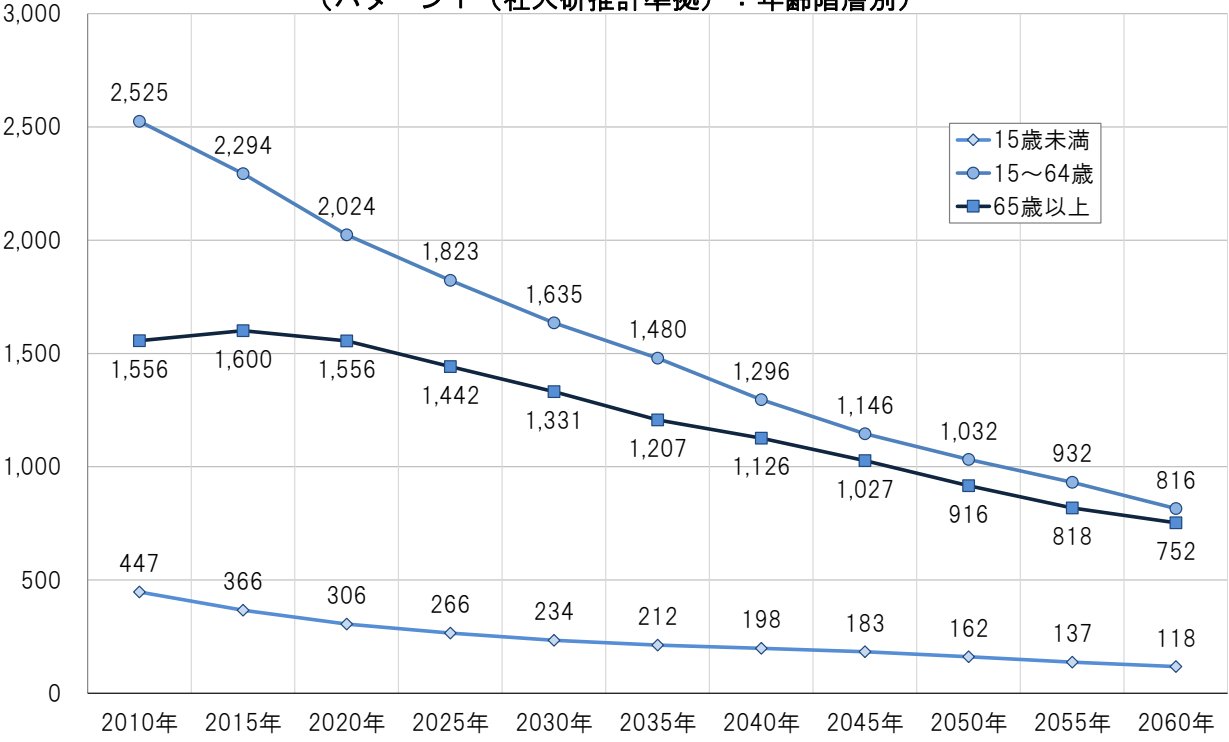


● 人口割合がほぼ横ばいの地区

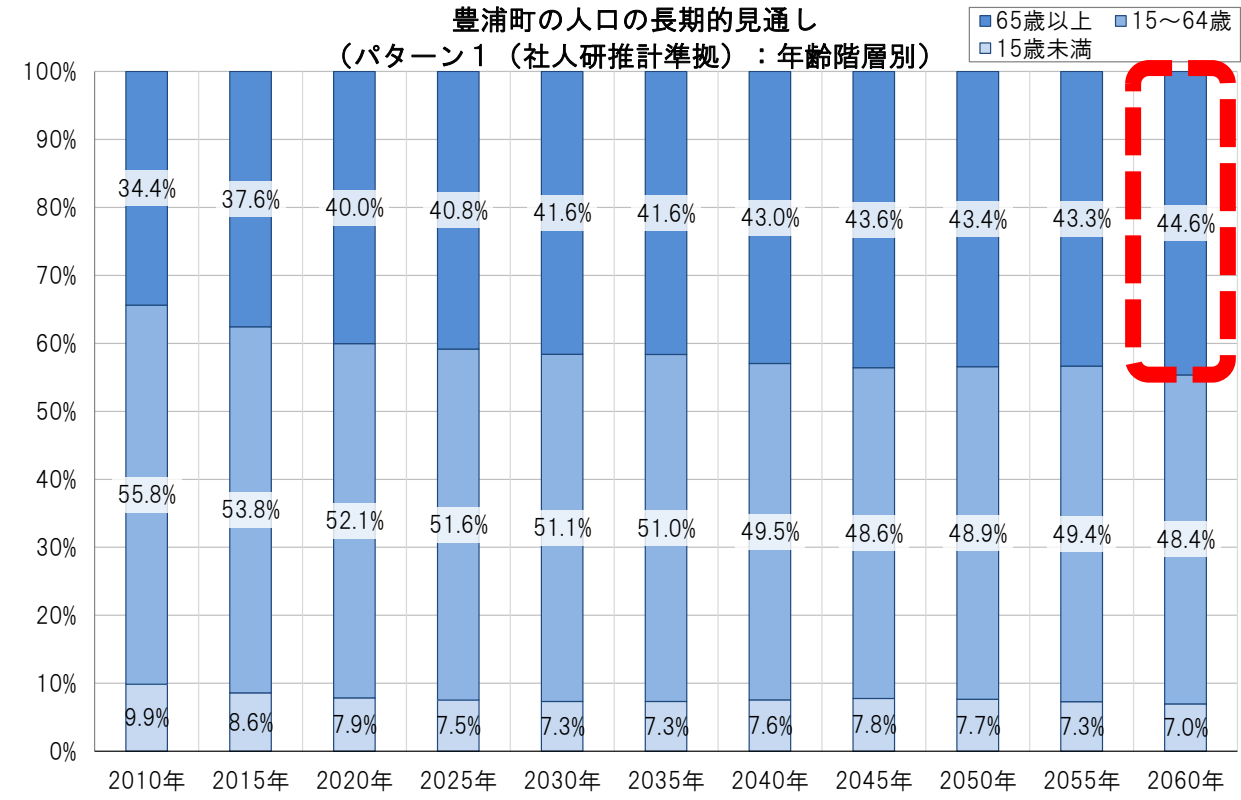
■ 人口の将来の推移

●このままの流れで行けば、2060年には、人口の半分弱が高齢者のまちに

豊浦町の人口の長期的見通し
(パターン1 (社人研推計準拠) : 年齢階層別)



豊浦町の人口の長期的見通し
(パターン1 (社人研推計準拠) : 年齢階層別)



→これが適正な人口構成となりうるのか？
→(特に北海道は)適正な人口規模は誰もわからないが、まちの運営が成り立つ状態を保っておかなければ続かない

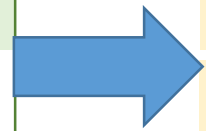
■ 地方版人口ビジョン・総合戦略とは

地方人口ビジョン【2060年までを基本】

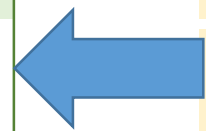
地方版総合戦略【2019年度までの5か年】

中長期展望

1. 人口の現状分析
• 人口動向や将来人口推計の分析



2. 人口の将来展望
• 目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえた人口の将来展望



基本的方向性

1. 地方における安定した雇用を創出する
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

具体的な施策

各種施策

地方の実情・特徴を活かした設定

人口の現状と将来の展望（「地方人口ビジョン」）を踏まえた上で、地域の実情に応じながら、一定のまとまりの政策分野ごとに、戦略の基本目標を設定

地方人口ビジョン【2060年までを基本】

中長期展望

1. 人口の現状分析

- 人口動向や将来人口推計の分析



2. 人口の将来展望

- 目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえた人口の将来展望

ア 人口動向分析

- 現在までの人口やその動き(出生/死亡、転出/転入)についての把握

イ 将来人口の推計と分析

- 出生率や転出入が、現状のまま続くと仮定し、将来人口を推計
- 人口の動き(出生/死亡、転出/転入)が、どの程度、将来人口に影響するかを分析

ウ 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

- イで示された将来の人口減少が、どのような悪影響を及ぼすかを分析

■ 地方版人口ビジョン

地方人口ビジョン【2060年までを基本】

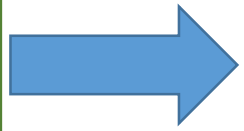
中長期展望

1. 人口の現状分析

- 人口動向や将来人口推計の分析

2. 人口の将来展望

- 目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえた人口の将来展望



ア 将来展望に必要な調査・分析

- 住民の結婚・出産・子育てや移住に関する意識等

※「将来展望に必要な調査」として、以下を実施中

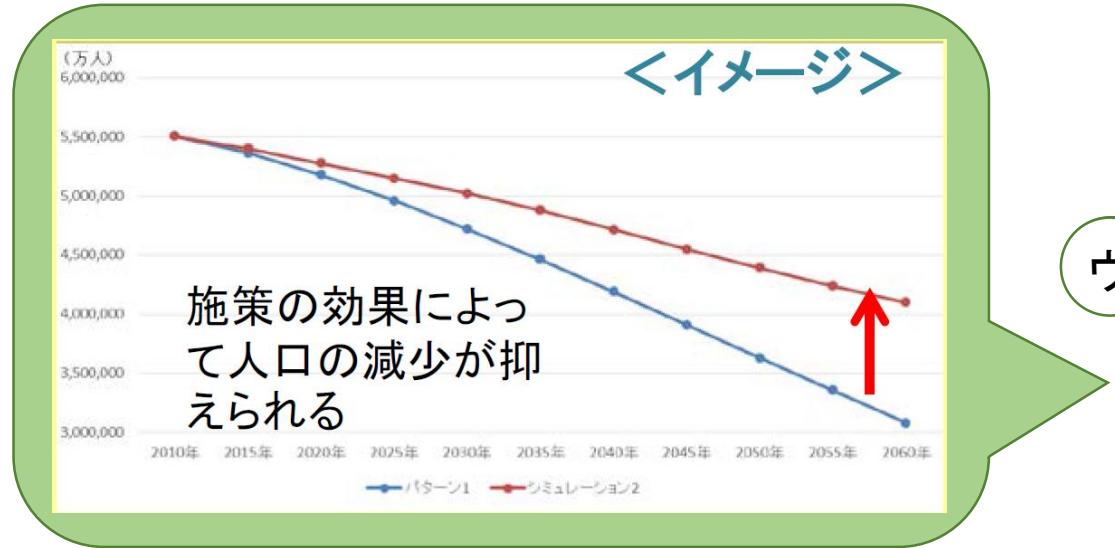
- 20歳以上に対する意識調査
- 20～30歳代への子育て環境に対するアンケート
- 高校生アンケート(追加で小中学生を予定)

イ 目指すべき将来の方向

- 地方が目指す将来像
- 住民の希望を実現するための基本的な施策の方向性

ウ 人口の将来展望

- 施策による効果で、どの程度、人口の動き(出生/死亡、転出/転入)が変化し、どの程度人口減少が抑えられるかを推計



■ 地方版総合戦略

地方版総合戦略【2019年度までの5か年】

基本目標と基本的方向

(※国の基本目標を例示、各地方で設定)

1. 地方における安定した雇用を創出する
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

具体的な施策



計画について、
目的通りに取り組めているか、
目標(KPI)を設定し、
PDCA (Plan-Do-Check-Action)

具体的に何に
取り組むか

取り組みの目標

【参考例】

(1) 基本目標
雇用創出数: 5年間で●人
就業者数 : 5年間で●人

どのような方針で
臨むべきか

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

- 雇用機会の確保や創出につながる地域の特性を生かした産業政策に取り組む
- 潜在的な労働供給力の活用も含めた地元の人材の育成・定着などを通じて、地域産業を支える人材の確保を図る

(3) 具体的な施策
地域産業の競争力強化
→ 農作物の新たなブランドの育成・認証とPRの推進

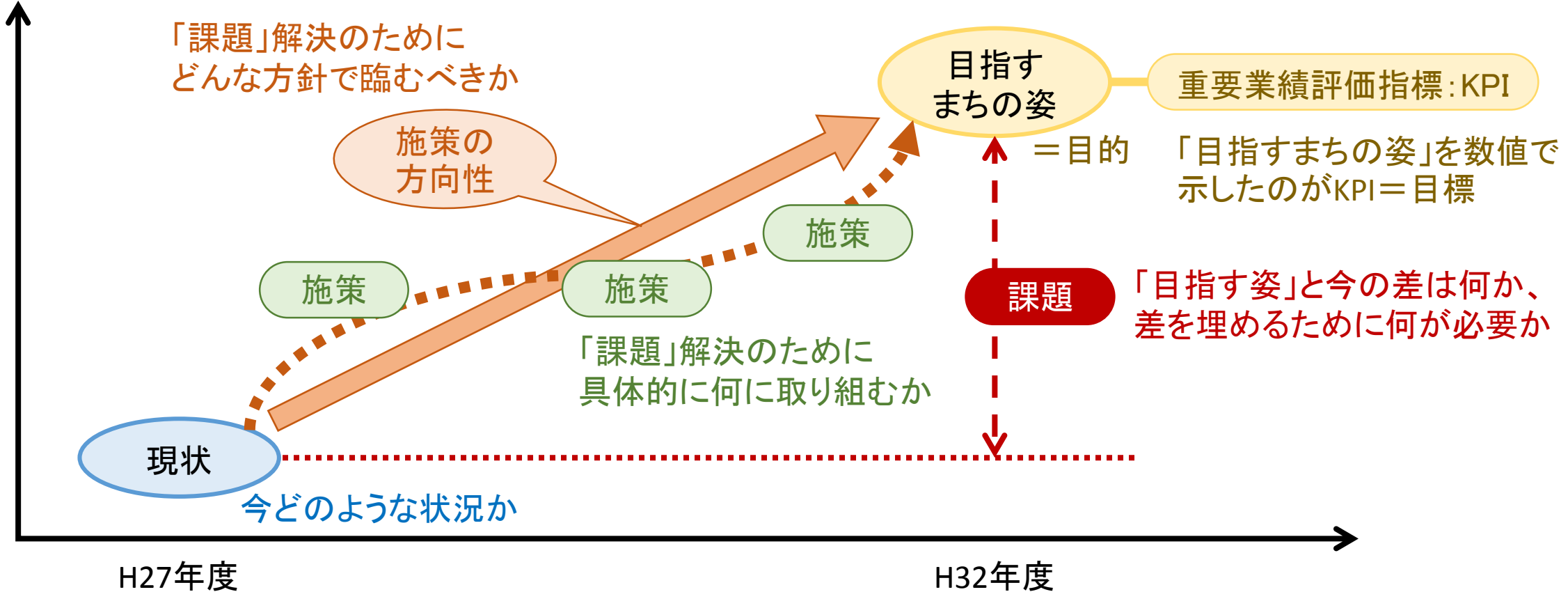
(4) 施策ごとの重要業績評価指標: KPI
農業産出額: ○○円 ⇒ ●●円

■ 地方版人口ビジョン・総合戦略の基本要素

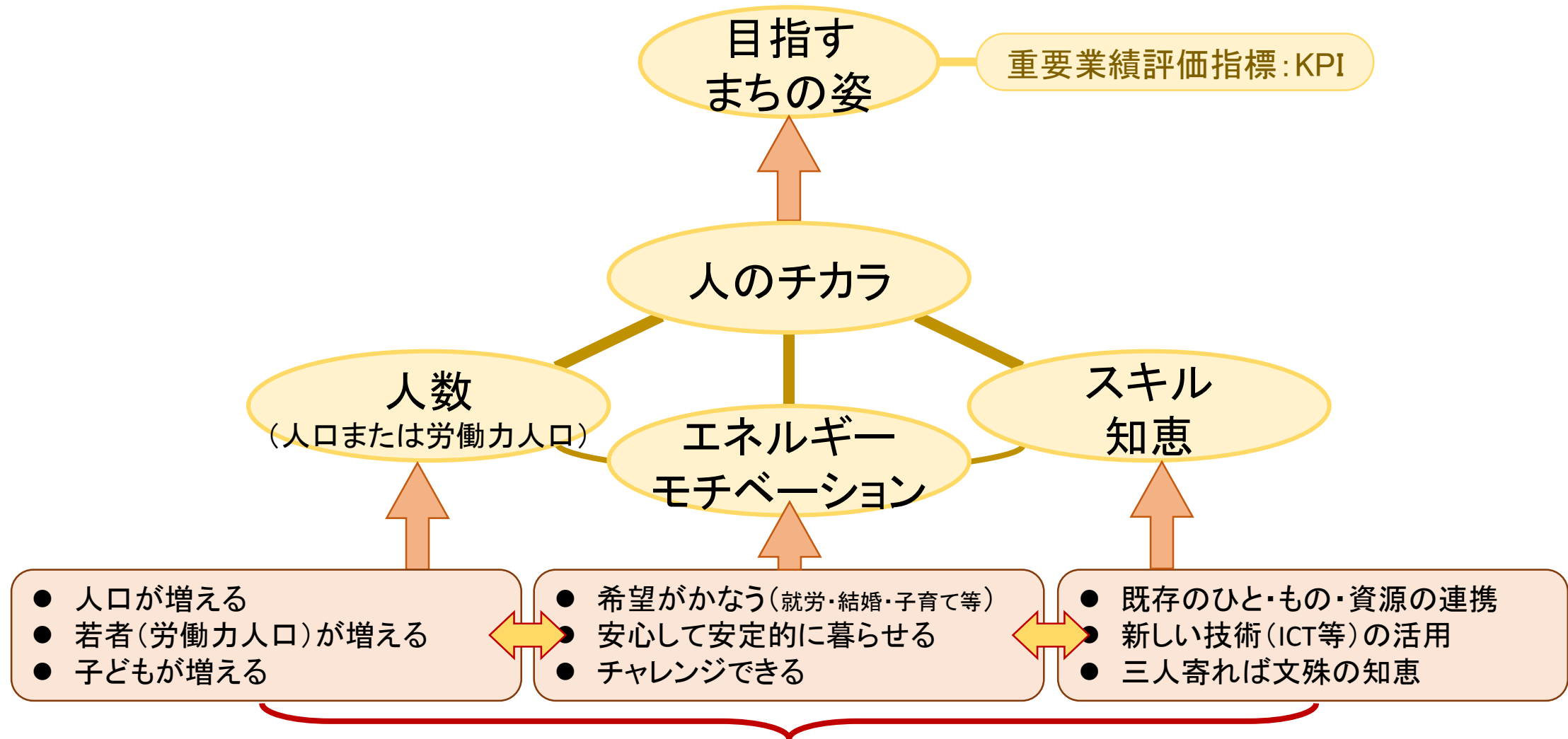
どんなまちに
なって欲しい？

良いところ・
のびたいところは？

残念なところ・
改善したいところは？

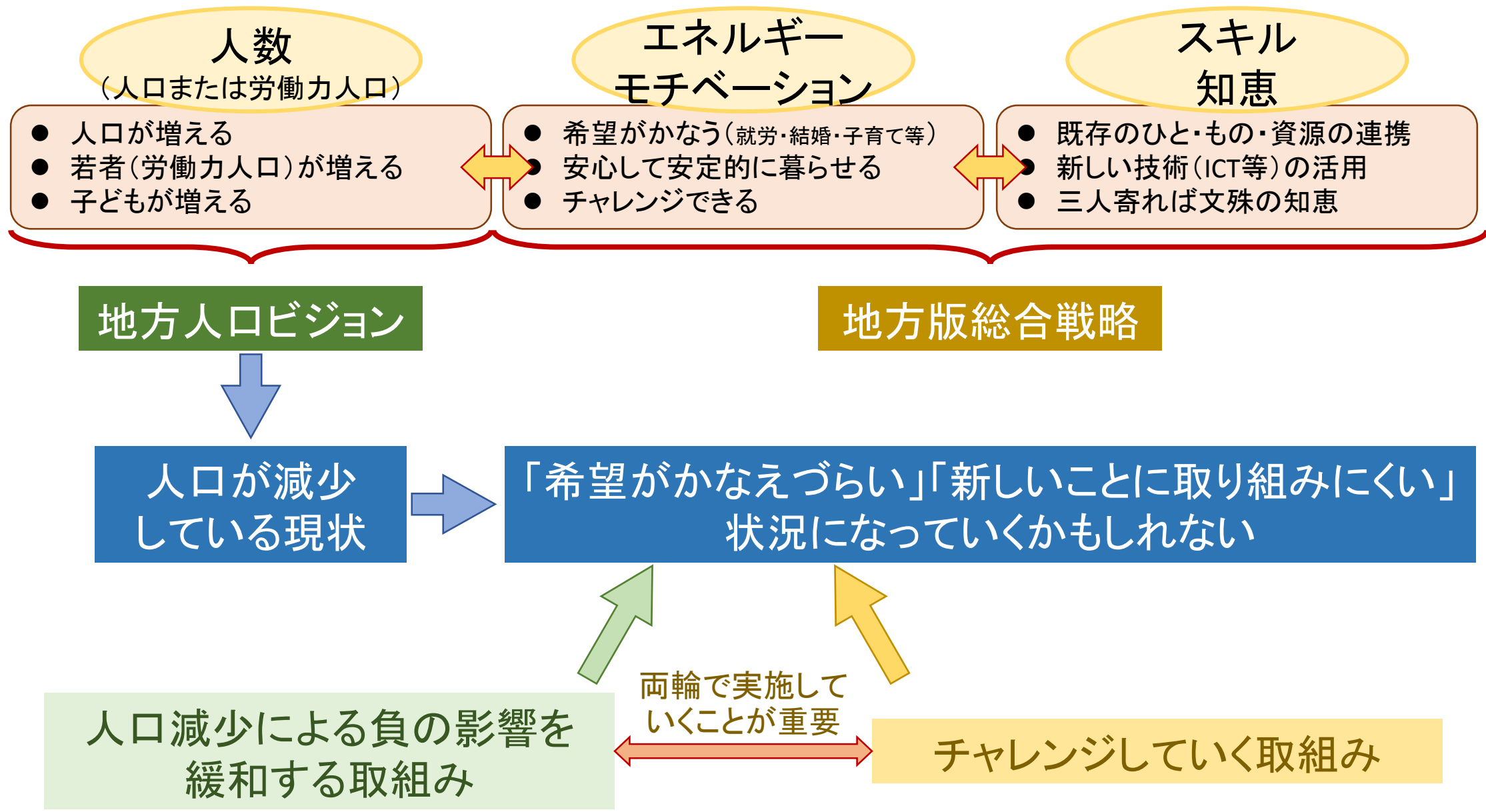


■ 地方版人口ビジョン・総合戦略の基本要素

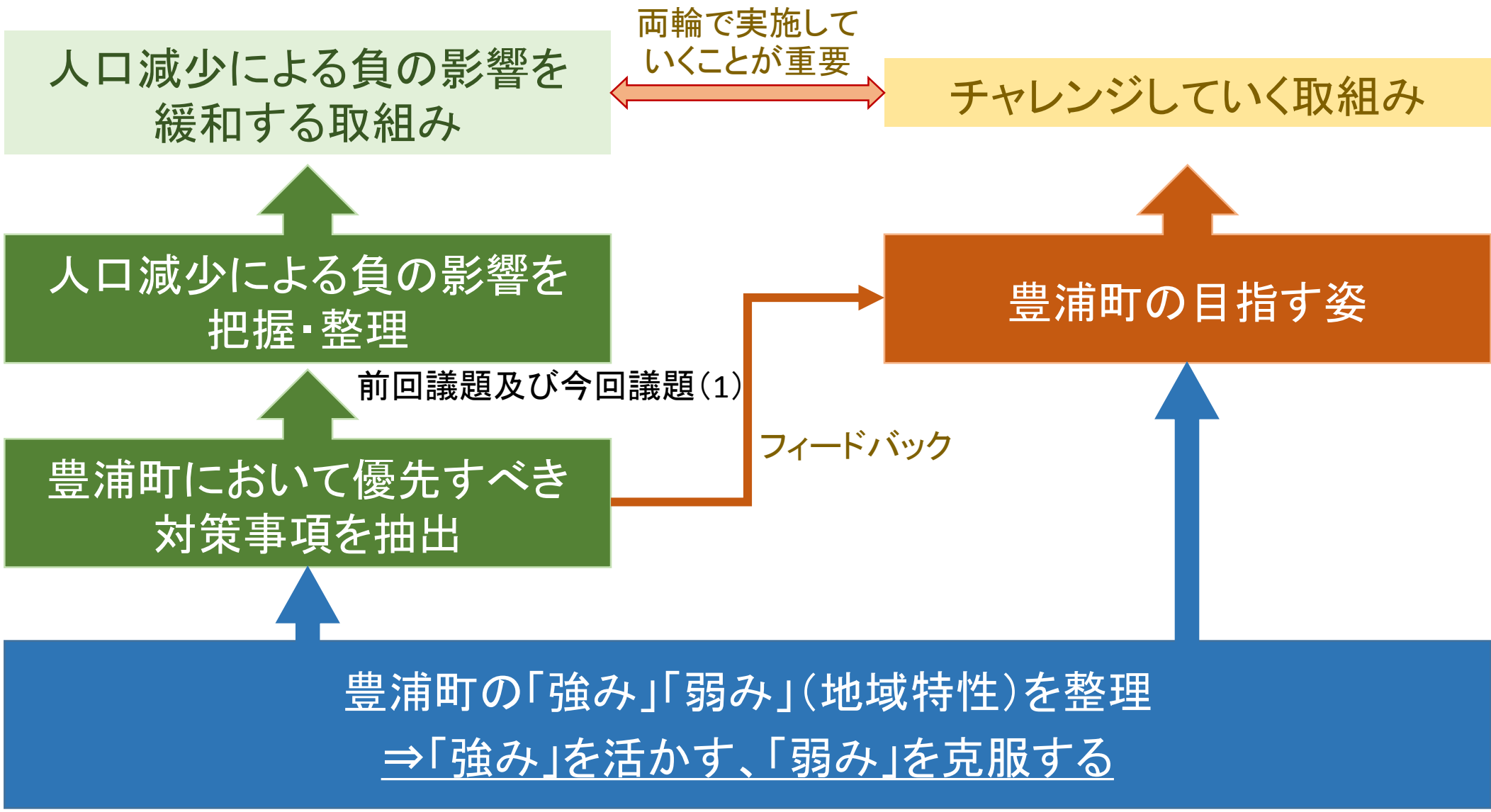


相互に関係し、スパイラルアップするものと考えられる
(国の長期ビジョンや総合戦略の方向性と同調するもの)

■ 地方版人口ビジョン・総合戦略の基本要素



■ 地方版人口ビジョン・総合戦略へのアプローチ方法



今回議題(2)

(1) 人口の変化が地域の将来に与える影響
(前回に引き続き)
(ワークショップ形式)

■ ワークショップの進め方

本日の目的とテーマ

- ① 人口の変化が地域の将来に与える影響を洗い出します。
 - ② 国の総合戦略の4つの「基本目標」を踏まえながら、人口の変化が地域の将来に与える影響を克服するための豊浦町の「強み」「弱み」を洗い出します。
- 今回の意見が、人口ビジョン及び総合戦略における方針(何を活かすか？何を克服していくか？)につながります。

グループ分け

- 皆さんにたくさんの意見を出していただくために、3グループに分けて意見交換を行います。

グループA 谷本座長
片桐 委員
腰原 委員
伊東 委員

グループB 山形 委員
平池 委員
大西 委員
山田 委員

グループC 小西 委員
奇本 委員
大久保 委員
鵜野 委員

■ ワークショップの進め方

ワークショップのルールと基本的なスタンス

■ ワークショップのルール

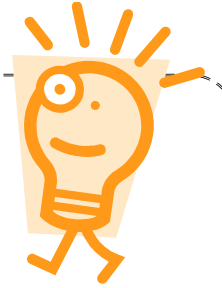
① 他の人の批判せず、認め合いましょう

・・・いろいろな意見があっても当然です、違う意見・考え方を楽しみましょう

② 役場への要望の場ではありません。みんなで創造する場です

・・・まちづくりは住民と行政一体となって行うものです

③ 特定の人に発言が集中しないようにしましょう



■ 基本的なスタンス

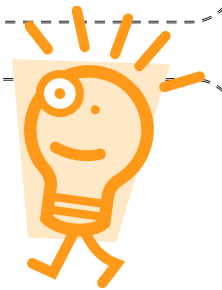
① 自分たちが目指す生活スタイル・まちの姿を確認しあいましょう

・・・高度経済成長の時代ではありませんので、「どうなりたいか」が重要です。

・・・少子高齢化、人口減少、競争社会等々、「どう克服するか」が重要です。

② 前向きでポジティブな発想、自分たちが行動すると言う意思をもちましょう

・・・支え合う社会には、行動する個人・団体が不可欠になります。



■ ワークショップの進め方

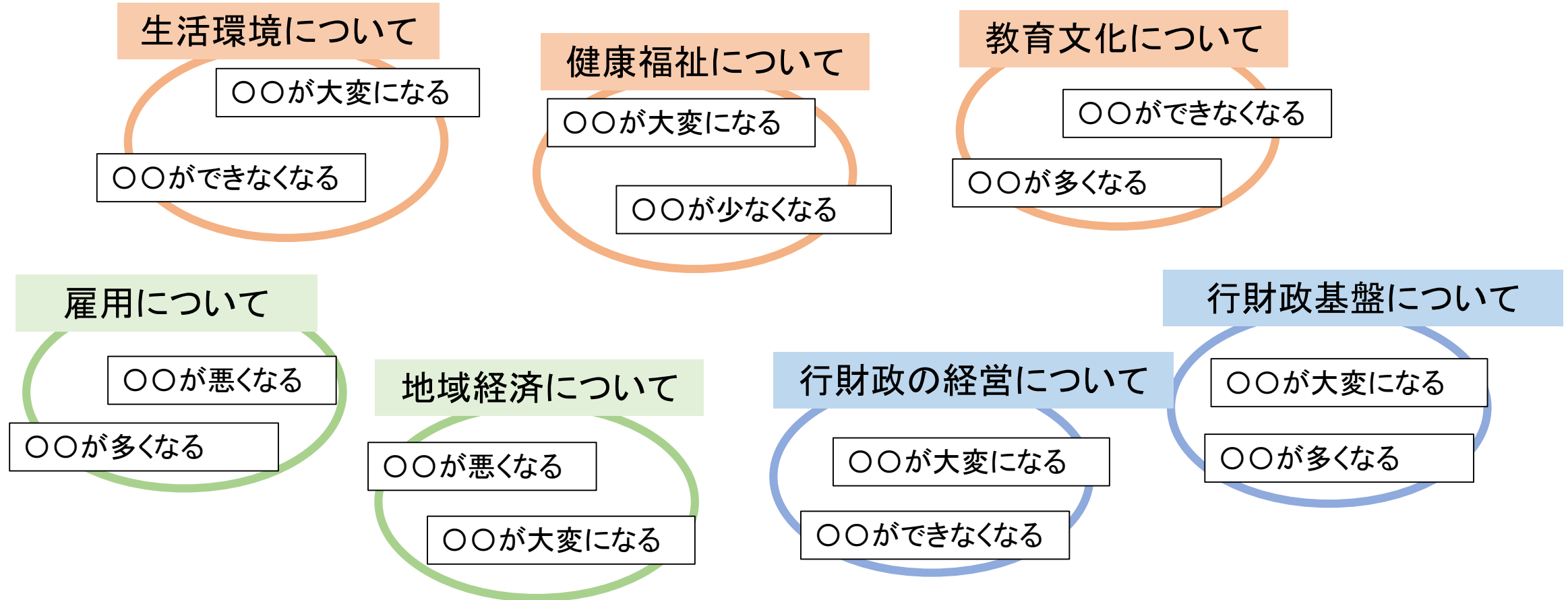
『①人口の変化が地域の将来に与える影響』の進め方

- 将来(概ね5～10年後)の目指すべき方向性を踏まえ、**人口の変化が地域の将来に与える影響**をご発表ください。(1人1回につき、1～2分程度)
- 進行役・記録者(豊浦町職員)が付箋紙にキーワードを記入します。

(※記録者は、大きな文字で、短文で付箋紙に書いてください)
- どのような意見が出されたか確認し、追加や補足の意見交換をしましょう。
- まだ、意見を集約する回ではありませんので、**絞り込まずにたくさん考えてください。**

『①人口の変化が地域の将来に与える影響』の成果イメージ

【人口の変化が地域の将来に与える影響】



■ 人口の変化が地域の将来に与える影響について

前回の意見交換の中で出てきた内容

		人口減少による負の影響のイメージ(参考例) 主な具体の現象	主要因の想定
市民生活	生活環境	● 消防団や自主防災組織など、いざと言う時に地域の防災組織が機能しなくなる。	実働可能な生産年齢人口の減少
		● 空き地や空き家が増え不審火・不審者など地域の治安が悪化する。	総人口の減少
		● 町会・自治会活動など身近な自治活動を維持できなくなる。(催事を取り仕切る幹事がいない、除雪)	高齢者の増加
	健康福祉	● 子育て支援施設の維持が困難になり、居住地の近隣で子育てサービスを受けられなくなる。	少子化、子育て世代の転出
		● 高齢者一人ひとりのニーズに対応した福祉サービスを提供できなくなる。	高齢化率の上昇
		●	
	教育文化	● 学校の統廃合が進み、小中学校が地域の拠点として機能しなくなる。	少子化、子育て世代の転出
		● 郷土芸能や地域文化の継承者が少なくなり途絶えてしまう。	高齢化率の上昇
		●	
地域経済	経済	● 後継者や人手不足により漁業権の未継承、耕作放棄地や放置林などが増加してしまう。	実働可能な生産年齢人口の減少
		● 小売店の撤退などにより生活の利便性が低下してしまう。	総人口の減少
		● 人手不足により生産力が確保できず、工場や事業所の廃止などに追い込まれてしまう。	実働可能な生産年齢人口の減少
	雇用	●	
		● 求人ニーズと求職ニーズとが一致せず、雇用はあるが働けない人が多く発生する。	実働可能な生産年齢人口の減少
行財政	経営	● 幅広い行政サービスの提供ができず、かつ選択と集中もできず総ての階層から満足を得られなくなる。	少子化、高齢化率の上昇
		●	
	基盤	● 需要に見合った施設サービスを提供できず空間利用の不平等が発生する。	少子化、高齢化率の上昇
		●	

(2)豊浦町の「強み」と「弱み」について (ワークショップ形式)

■ ワークショップの進め方

『②豊浦町の「強み」「弱み」』の進め方

- 将来(概ね5～10年後)の目指すべき方向性を踏まえ、豊浦町の「強み」「弱み」をご発表ください。(1人1回につき、1～2分程度)
- 進行役・記録者(豊浦町職員)が付箋紙にキーワードを記入します。
(※記録者は、大きな文字で、短文で付箋紙に書いてください)
- どのような意見が出されたか確認し、追加や補足の意見交換をしましょう。
- まだ、意見を集約する回ではありませんので、絞り込まずにたくさん考えてください。

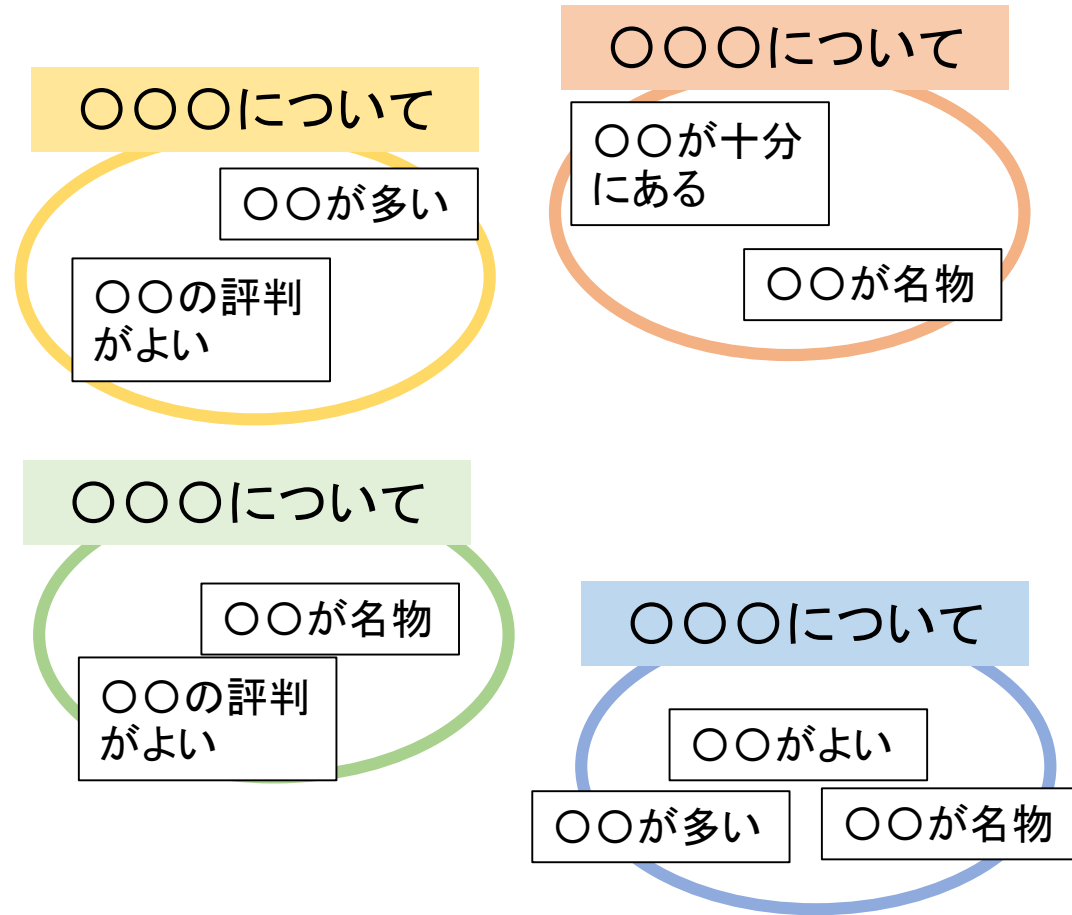
「強み」： 活かしたいこと、自慢できること

「弱み」： 改善したいこと、残念なところ、本当は強みになるようなこと

■ ワークショップの進め方

『②豊浦町の「強み」「弱み」』の成果イメージ

【強み：活かしたいこと、自慢できること】



【弱み：改善したいこと、残念なところ、本当は強みになるようなこと】

